

令和5年度 学校評価 自己評価書【2学期】

(小78)生見小学校

令和5年12月22日(金)

1 学校の重点課題

- | | |
|---------------------------|---|
| ○ 学習の基盤となる情報活用能力の育成 | ○ 自ら進んで最後まで粘り強く取り組む態度の育成 |
| ○ 道徳教育や体験活動を基盤とした豊かな情操の実践 | ○ 相手の意図を理解し、自分の言いたいことを伝えるコミュニケーション能力の育成 |

2 課題と改善策

	評 価 項 目		評 価 の 結 果 と 改 善 策
学 校 経 営	1 学年・学級経営における教育目標の具現化	3.2	△ 保護者や地域の声をアンケート等とおして受け止め、職員会議などで検討し、PDCAサイクルを生かした実践へとつなげていく。 ○ 個に応じて教育課題を把握し、意欲が高まるように指導の工夫を学校全体で取り組んだ。教育目標の具現化に向けて、さらに細やかな指導ができるように工夫改善を図っていく。
	2 目標達成のための意欲付け・実践化	3.6	
	3 教育課題の明確化	3.7	
	4 師弟同行の環境づくり	3.4	
	5 保護者や地域に開かれた教育活動	3.3	
学 習 指 導	1 発達段階に即した学習の基盤づくり	3.4	○ 学校行事を通して一人一人が活躍できる場が多く保障され、学習と関連付けながら教育設営ができた。 ○ タブレットを効果的に使用した授業展開から、リテラシーの向上を図った。また、家庭学習にもタブレットを活用し、一人一人の課題に応じた学習に取り組むことで、学習内容の確実な定着を図れた。 ○ 学力検査等の分析から指導の重点化を図り、評価とまとめを確実に行うなど共通実践事項に取り組むことができた。さらに学年のまとめとして定着を図っていく。 △ ガイド学習の進め方が定着してきた。さらにガイド役がよりよい学びの調整役としての育成に向けて、ロイロノート等を活用して、表現・伝達・比較といったコミュニケーション能力の向上を図っていく。 △ 単元テスト80%達成を目標に、各担任が反復練習や補充指導に取り組みながら学習の定着を図っている。
	2 基本的な指導過程を踏まえた授業の展開	3.6	
	3 人権同和教育の視点に立った一人一人が活躍できる場の設定	3.7	
	4 評価とまとめを大切に学習内容の確実な定着	3.6	
	5 学力検査等の結果を踏まえた指導内容の重点化	3.4	
	6 具体的な数値目標の設定	3.3	
	7 習熟の時間(国語タイム・算数タイム)の充実	3.7	
	8 教材・教具の計画的な整備・活用	3.3	
	9 少人数・複式学級における指導形態の工夫やガイド役の育成	3.2	
	10 ICT機器の積極的な活用と情報活用能力の育成	3.3	
	11 特別支援教育の視点に立った児童の実態を応じた指導・支援	3.2	
	12 「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の習慣化	3.2	
	13 体験的な学習に重点を置いた外国語活動の充実	3.4	
生 活 指 導	1 心の教育委員会(児童理解)の充実	3.6	○ 心の教育委員会をとおして児童理解を深め、全職員で組織的に児童にかかわる指導体制を確立する。 ○ 授業や学校保健委員会、家庭教育学級において児童と保護者がともに基本的な生活習慣について学べる場、情報交換できる場を設定していく。 ○ 縦割り清掃やグリーンタイムなど奉仕活動における縦割り班で行動する機会を生かして、高学年児童のリーダー性を高める。 ○ 図書室利用の機会が増え、季節や行事に応じた読書活動を進めた。
	2 教育相談をとおして児童や保護者のニーズの把握	3.2	
	3 各教科や行事等と関連付けた道徳教育の推進	3.6	
	4 児童一人一人の心の動きを大切に道徳教育の充実	3.4	
	5 発達段階に応じた情報モラルの指導の徹底	3.3	
	6 特別活動の充実と話し合い活動の活性化	3.2	
	7 異年齢集団による縦割り班活動の充実	3.5	

	評 価 項 目		評 価 の 結 果 と 改 善 策
生活指導	8 グリーンタイムなどの環境教育の充実 9 トークタイムや俳句タイムの充実 10 教児一体となった読書活動の推進	3.3 3.4 3.5	△ 児童会活動を中心に、学校の課題について児童が課題意識をもって話し合う場を学級活動や委員会活動において充実させる。 △ 情報モラルの指導に関して事例やタイミングを工夫しながら繰り返し指導を徹底していく。
体育・保健指導	1 体力づくり活動の日常化 2 体育・遊具施設の効果的な活用 3 郷土の豊かな自然を生かした体験活動の充実 4 こまめな児童の心身の健康状態の把握 5 家庭と連携した望ましい食習慣の形成 6 性教育並びに薬物乱用防止教育の推進 7 家庭と連携した学校保健委員会の充実 8 安全点検や危険箇所点検の徹底 9 心と体の耐性づくりの推進 10 体力・運動能力調査の等の結果を踏まえた指導内容の重点化	3.4 3.2 3.2 3.8 3.2 3.7 3.3 3.8 3.3 3.2	○ 体育的行事を関連付けながら、一校一運動をとおして、体力づくりの日常化を図ることができた。更に上の体力向上を目指して個別の目標をもたせる取組を工夫し、目標達成に向けて意欲的に取り組ませることができた。 ○ 安全点検における異常個所を画像として確認・保存することで、危険箇所として全職員で共通理解したり、経過観察中の進捗状況を確認したりすることができ、速やかな対応につながった。 △ 体育学習において固定施設を利用した運動に積極的に取り組ませるなど、児童の向上心を刺激し、さらに進んで運動に取り組むようにする。
研究	1 研修テーマに基づいた計画的・継続的な研修の実施 2 各種研修会・研究会での修養を生かした実践と指導法の工夫	3.4 3.7	○ 研究授業や相互授業参観を実施して、複式・少人数指導法の確立とガイド学習の充実について研究を深めることができた。
地域・家庭・連携	1 P T Aと連携した各種行事の円滑な企画・運営 2 学校だよりや学級だより等を活用した情報発信の充実 3 学校P T Aにおける年間テーマの実践と活動の充実 4 まちづくり協議会や地域の各種団体との連携の強化	3.0 3.6 2.8 3.2	○ P T Aや各関係団体との連携を図りながら、各種行事で互いに協力しながら円滑な運営を進めることができた。 △ P T Aのテーマ「生活習慣の見直し」について、生活リズムチェックに取り組んでいる。3学期は講話や意見の交流を図って規則正しい生活や整理整頓などがよりよくできるように取り組んでいく。
処 理 務	1 計画的な報告物・提出物の作成と適切な書類の整理・保管 2 勤務処理簿や公文書等の適切な処理	3.6 3.5	○ 連絡・確認を徹底して報告物や提出物の適切な処理を図ることができた。

3 次学期に向けての取組

【学力検査等の結果を踏まえた指導内容の重点化】

標準学力検査(N R T)や鹿児島学習定着度調査、かごしま学力向上 Web システム問題等の結果をもとに、定着度の低い内容の繰り返し指導が行えるように、金曜日の朝の活動「習熟タイム」を活用して、定着を図っていく。

【児童の体力向上を目指す体力づくりの推進・工夫】

一校一運動(一輪車・なわとび・ジョギング)が習慣化しているので、それに併せて児童一人一人の到達目標の設定と固定遊具を活用した目標達成のために必要なトレーニング取組ませるなど、全校で取り組める協力体制を整えていく。

【小規模校ならではの異年齢集団の活動】

縦割り清掃や委員会活動等をとおして、ボランティア精神や思いやりの心の育成を図る。また、高学年児童には、学校のリーダーとしての自覚をもたせ、下学年児童に尊敬されるような行動を意識させてリーダー性の育成を図る。